第２部 講演②

高齢者の口腔管理の実践

松江赤十字病院
歯科衛生士　管田 京子　米田 真弓

11月６日、とても天気が良く行楽日和の中、地域医療従事者スキルアップセミナーが開催され、地域の医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、介護支援専門員など、多数の職種の方々に参加して頂きました。今回「高齢者の口腔管理の実践」をテーマに、高齢者の口の中の状態や特徴、口腔管理の方法についてお話させて頂きました。

高齢になると唾液が少なくなり、口腔内が痛くなるトラブルも出てきます。そして、歯磨き不足や自分で磨けなくなると、口腔内細菌が増えて、嚥下がうまくできないと誤嚥性肺炎を引き起こします。全身状態が悪化するほど、口腔管理が重要になります。今回、今までの事例を紹介しながら、動画や写真で口腔管理の方法を見て頂きました。

高齢者の中には、ハミガキ習慣が無く、磨かない方も多々おられます。そこで５日間ハミガキを止めて、口の中がどうなるのか？！と初めて実験しました。洗口剤で毎食後と就寝前にブクブクうがいをしましたが、染色液で確認するとやはり真赤々になっていました。デンタルリンスを頼ってもプラークは落ちないと再確認が出来ました。そしてこの５日間「舌がヌルヌル、ザラザラしている歯面をやたらと触っている事に気が付き、いわゆる舌痛症になる」「口腔内細菌が増え口内炎発症」「食事が美味しくない！！」等々、患者さんの声が聞こえました。

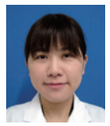
皆が年を取っていき、いずれは高齢者となります。私達医療スタッフは一生自分の歯で美味しく食事をして頂く事が願いの一つでもあります。かかりつけ歯科医院を定期的に受診しブラッシング指導を受けて頂く事、プロフェッショナルクリーニングを受けて頂く事でそれが叶うと思います。口は自分の目で見られる唯一の臓器です。１日１回は手鏡を見ながらハミガキを行い、そして口の中の変化の有無を確認して頂けたら幸いです。

参加者から「粘稠痰が口腔内にあると不快だとかあまり考えたことがなかったが、確かにそうだと思った」「口腔ケアの大切さを改めて学ぶ事ができた」「痛みのない気持ち良い口腔ケアの方法がわかった」などの感想があり、とても嬉しく思いました。

今後も地域の皆さんと共に、お口の健康を支えていきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

新任医師紹介

よろしくお願いいたします。



第二小児科医師

佐藤（さとう） 美愛（みちか） R3.12.1

初めまして。今年の 12 月からこちらの小児科に赴任致しました。笑顔を忘れず、子ども達や御家族ひとりひとりと向き合い、寄り添った診療ができるよう心がけています。どうぞ宜しくお願い致します。

脳神経内科医師

金谷（かなたに） 優広（まさひろ） R4.1.1

初めまして、脳神経内科の金谷優広と申します。出身は香川県、出身大学は鳥取大学です。脳卒中をはじめとして、神経内科疾患の患者様の医療に尽力して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

脳神経外科医師

田口（たぐち） 慧（あきら） R4.1.1

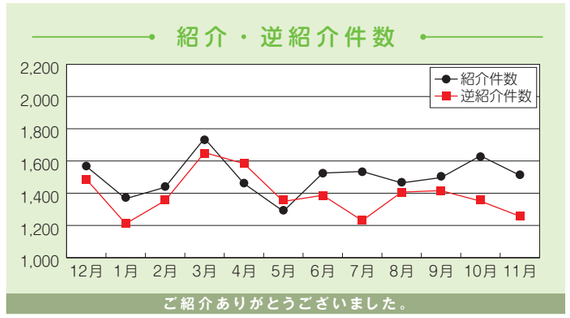
広島大学出身です。趣味は子育てと脳血栓回収術、特技は頭部画像診断と下垂体ホルモン負荷試験です。身体所見を細かく観察し、画像との一致、不一致を詳細に検討する事を心がけています。

退職者

お世話になりました

●令和３年12月31日付

脳神経内科医師	岡田 直也
眼科医師	真鍋 薫
脳神経外科医師	清水 陽元



松江赤十字病院　地域医療連携課
〒690-8506 松江市母衣町200番地
TEL 0852-32-7813　FAX 0852-27-9261

日本赤十字社
松江赤十字病院　地域医療連携課

れんけいだより

vol.52
2022年1月号

新年のご挨拶

院長
大居 慎治

新年明けましておめでとうございます

昨年は一昨年同様、コロナに明け暮れた１年でした。職員が一丸となって職務に励み、医療崩壊させることなく、コロナと通常の診療と両立できたことに安堵しています。

さて、2022年のキーワードは感染症対策、地域医療構想、働き方改革、IT活用です。

感染症対策の中心はもちろん新型コロナ対策です。新規治療薬なども登場し、今後は重症化予防すなわち無症状・軽症のうちの治療が焦点になります。当院の役目としては入院診療のほか、3回目以降のワクチン接種と、外来での中和抗体や内服薬の投与、メディカルチェック（重症度判定とトリアージ）、自宅宿泊所療養での悪化に対する対応があります。今まで通り、他の病院や開業医の先生方と連携して対応できるよう準備しています。

次に地域医療構想です。急性期病院は、将来の医療需要の変化に対応するために効率的な運用が求められます。昨年12月に上定市長の立会いのもと松江市立病院と協定を結び、連携・役割分担の協議を始めることになりました。これまで以上に両病院が連携し機能を分担して地域の医療レベルを維持向上させつつ効率的な医療を提供することが目的です。

病診連携については、当院は高い紹介率、逆紹介率が示す通り先進的に進めてきました。救急医療、職員の派遣、研修会などでも地域に貢献する方針に変更はありません。一方で地域における回復期、慢性期病床の不足、在宅医療や介護に関わる事業所やマンパワー不足の問題は深刻な問題であり、当院としても支援していきたいと思っています。

医師の働き方改革については診療科ごとに対策を進める段階になってきています。業務の見直し、タスクシフト等を進めていかねばなりませんが、患者さんや医療介護に携わる方々にもご理解をいただきながら進めていきたいと思います。

IT活用については、医療は対面での仕事が主でITに馴染まないとよく言われます。しかしながら徐々にではありますが、確実にIT化の波は押し寄せてくると思われます。コロナ禍で加速しているように見えます。まずは個々の職員のITスキルを高めるところから始めようと思っております。

今年もどうかよろしくお願いいたします。

第15回　地域医療従事者スキルアップセミナー

11月6日（土）
（於）松江赤十字病院　講堂

第１部　一般演題（口頭発表）

転院前Web カンファレンス実施状況報告

社会医療法人 昌林会
安来第一病院　看護師　**田中 朱美**

「転院前 Web カンファレンスの実施状況報告」を発表する機会を頂きました。

松江赤十字病院から当院へ転院される患者様の情報共有は、これまで診療情報提供書、看護サマリーをはじめとした記録媒体によって行われていました。しかし、それだけでは表現しきれない患者様の心理面の情報や転院による不安の解消を目的として 2020 年 12 月から Web カンファレンスを実施しています。

これまでに実施した Web カンファレンスについて、参加した職員へのアンケートとインタビューにより実施状況を振り返りました。その結果、看護師、リハビリスタッフ、MSW ともに Web カンファレンスをすることで①直近の情報を得ることが可能、②心理面の情報収集に有効、③画面を通して患者様との交流が可能等の効果が抽出できました。また、参加した職員にとっては、患者様の継続的なケアを介した急性期病院職員との交流により回復期病院の役割を自覚する機会にもなりました。

患者様が希望される人生を過ごしていただけるよう急性期、回復期、生活維持期の連携が今後ますます重要となります。連携方法の一つとして今後も Web カンファレンスを活用して参りたいと思います。よろしくお願いします。

児童虐待予防と早期支援に向けた取組紹介
～医療と行政における定期カンファレンスの実施～

島根県中央児童相談所
保健師　**細田　舞**

近年、全国的に児童虐待相談対応件数が増加し、多くの子どもの命が失われている深刻な現状を受けて、国は平成 31 年に児童虐待防止対策の抜本的強化を図ることを示しました。その取組の1つとして医療機関との連携体制強化があります。

中央児童相談所管内におきましても、児童虐待発生時の連携や虐待予防のあり方について、関係機関の方の意見を頂きながら進めております。取組の1つに、令和2年度から、松江赤十字病院さん、松江市家庭相談課さんと定期カンファレンスの開催をしております。相互機関の対応の確認やケース共有をすることで、わずかながらではありますが、連携強化や虐待予防に向けて進み始めている様子を紹介させていただきました。

歯科関係者の方も多く参加された今回のセミナーで紹介させて頂くことにより、歯科受診や健診時における虐待疑いのある子の早期発見や連携強化の必要性についてもご意見を頂く貴重な機会となりました。今後も様々な関係機関と共に少しずつ進んでいきたいと思いますので、気軽にお声かけいただけると幸いです。

知的障害をもつ患者に対する脳卒中再発予防指導

社会医療法人 昌林会
安来第一病院　看護師　**小川 愛佐美**

「知的障害をもつ患者に対する脳卒中再発予防指導」について発表をさせていただきました。脳卒中は再発しやすい病気と言われています。「急性期から一貫した指導を行うことで患者様の理解・行動変容が進むのではないか」という考えのもと、鳥取県西部圏域の連携病院で脳卒中再発予防パンフレットが作成され、今年度より安来第一病院ではこのパンフレットを用いて患者様に脳卒中の再発予防指導を行っています。

私が関わらせていただいたのは、脳出血を発症・治療の後、リハビリ目的で当院に転院された患者様でした。精神遅滞もあり自分が脳出血を起こしていることへの意識も薄く、退院後の生活を見据え再発予防指導を行っていく必要がありました。従来のパンフレットを参考にしつつ、患者様の理解度に合わせたものを作成・指導を行いました。また目標を決め行動していく中で、患者様の自己効力感を高め行動変容の動機づけを行っていきました。その結果、退院後も再発予防行動がとれていることが分かりました。

今回のセミナーで他施設での取り組みを聞き多くの学びが得られました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

第２部　講演①

高齢者の口の違和感とその対応

松江赤十字病院
歯科口腔外科部長　**田窪 千子**

高齢の方で口の違和感を主訴に，日赤を受診される患者さんは多いです．口の違和感を我慢すると，気になる部位を触ったり，動かしたりするようになり，ディスキネジアをきたすこともあります．口腔粘膜のピリピリで受診される方は心配事があったり，家族の介護で忙しかったり，環境がかわったためということもありますが，年齢とともに皮膚が乾燥するように，口腔も乾燥してピリピリするようになる方も多いです．採血データでは亜鉛が低下していることもあります．

歯科では 8020 運動の推進により，30 年間で 80 歳以上の方の残存歯数は 10 本以下から，半数の方が 20 本の歯を維持するようになりました．かかりつけ歯科を受診している方もおられます．歯の残存数とフレイルとの関係が示唆されており，残存歯が少ないと転倒しやすいことがわかっています．残存歯が少なくても義歯を装着していたら問題ないのですが，装着していないと転倒リスクが上がるそうです．転倒から要介護に至る方もおられるので，口の管理を行い，全身の健康とともに口の健康にも気をつかっていただけると幸いです．